

1. 第1学年

- (1) 教科・領域 生活科
- (2) 単元名 「がっこうのいきかえり」
- (3) ねらい 登下校時の正しい歩き方や通学路について知らせ、安全に歩行する方法を身につけさせる。
- (4) 活動の流れ
- ◇毎日の登下校時に交通事故に遭わないために気をつけることを確認するとともに、地震が起きたらどのような行動をとればよいのかを考えさせる。
 - ◇できるだけ学習する場面を児童が想像しやすいように、「〇〇の所に行ったらどうするか。」「〇〇があったらどうするか。」など、具体的な問いかけをし、児童に考えさせる。
 - ◇避難先について、児童と保護者が共通理解しておくことが大切であるとの考えから、まとめの場面を使って「家の人と相談して、どこで会うようにするのか約束しよう。」と働きかけ、「確認カード」を配布する。
- (5) 成果と課題(反省)
- 登下校中に地震が起きたら、自分の命を守るためにどうすればよいのか、また、その後どこへ避難すればよいのかを自ら考える良いきっかけとなった。
 - 地震などの自然災害が発生した際の避難先など、家族としての「約束」を考える機会となった。
 - 震災の体験を思い出し、怖がってしまう児童が出ることも予想されるので、児童の心の面に配慮した授業づくりが必要である。



1年授業風景

2. 第2学年

- (1) 教科・領域 道徳
- (2) 主題名 「生きることを喜び、生命を大切にできる心を持つ」
- (3) 中心価値 「生命の尊重 3-(1)」
- (4) ねらい 生きることを喜び、自他の生命の大切さを自覚させ、かけがえのない生命を守ろうとする心情を育てる。
- (5) 活動の流れ
- ◇副読本の資料「ぼく」を使って、自分を「いちばん、いちばん好き」といった理由を発表させ、「ぼく」がいるからできることを考えさせる。
 - ◇これまでに自分を好きだと感じた経験を思い出せるために、家の人からの手紙を何通か読み聞かせる。
 - ◇家族からの手紙を読むことを通して、自分が生きていることが、家族の喜びであること、友だちも同様にかげがえのない存在であることに気づかせる。
- (6) 成果と課題(反省)
- 保護者からの手紙を活用したことで、「生きていて良かった。」と感じさせることができた。また、自分自身が「かけがえのない存在」であることにも気づかせることができた。



2年授業風景

○命を大切にすることを学ばせ、防災教育の「自分の命を自分で守る」気持ちを育てていく教材としても有効であった。

●自他の生命を大切にする児童を育てることは、今回の授業だけでなく、普段の指導の中でも大切にしていかなければならない。

3. 第3学年

(1) 教科・領域

特別活動（学級活動）

(2) 題材名

「地震から自分をまもろう」

(3) ねらい

地震が発生した場合、どのように自分の身を守るのかを考え、危険を回避し、安全な行動を取ることができる。

(4) 活動の流れ

◇東日本大震災が発生した時のことを想起させ、どんな被害が起こったか、どのようにして身を守ったかを発表させる。

◇学校の中の安全な場所、危険な場所を調査し、発表し合う。

◇危険を回避し、自分の命を守るための行動について、他のクラスの発表や消防署の方の話を聞く。

◇避難訓練後の時間を使って、これまで学習してきたことが生かされたかどうかを児童に振り返らせる。

(5) 成果と課題(反省) ○東日本大震災のときにどのようにして身を守ったかを話し合わせたことで、安全な場所は、「倒れてこない・落ちてこない・移動してこない」所であると気づくことができた。

○消防署の方の話を聞くことで、具体的な身の守り方を知ることができた。また、沿岸部での救助の様子を映像で見ることで、地震や津波の怖さを改めて知り、自分の命を守ることの大切さを再確認することができた。

○地震を想定した避難訓練では、学習したことをもとに素早く、安全に避難行動を取ることができた。

●5時間扱いの活動であったが、時数の確保が難しく、学級活動や総合的な学習の時間の中にどのように位置付けていくかを検討する必要がある。



3年授業風景

4. 第4学年

(1) 教科・領域

社会科

(2) 小単元名

「地震にそなえて」

(3) ねらい

日頃から非常時に備えることの大切さを知り、災害時にどのように行動すべきかを考える。

(4) 活動の流れ

◇震災時の生活をふり返らせ、大変だったことを話し合わせる。

◇大震災によりライフラインが止まり、日常生活を送ることが困難になった場合に必要な物資は何かについて、自分たちの経験から考えさせる。

◇大きな地震が発生したときの仙台市の取組を資料で説明し、避難所に備蓄されている物資について調べさせる。

◇調べたことや資料をもとに、自分たちが日頃からできる備えは何かを考え、それぞれの家庭でできることを中心に発表させる。



4年授業風景

(5) 成果と課題(反省) ○学校にある備蓄倉庫を実際に見学させたことで児童の学習意欲が高まり、災害が発生したときの備えとしてどんな物資が必要かを真剣に考えること

ができた。

○「非常時持出品チェックリスト」を作成し、それぞれの家庭での備えについて考えさせたことも効果的であった。

●学校が指定避難所になっている理由や地域の人が学校に避難してくる理由等について考えさせてもよかった。

●防災教育を進めていくために、子供たちの震災の経験を整理し、見つめ直す時間を設ける必要がある。

5. 第5学年

(1) 教科・領域

理科

(2) 単元名

「流れる水のはたらき」

(3) ねらい

増水による災害を防ぐために、河川にはいくつもの工夫がなされていることに気づき、まとめることができる。

(4) 活動の流れ

◇校庭に水を流す実験を行い、流れる水と土地の様子の変化について興味を持たせる。

◇川とそのまわりの土地の様子についての資料や実際の川などを調べて、流れる水には、土地を浸食したり、石や土を運搬したり、堆積したりするはたらきがあること、流れる水の速さや水量が変わると土地の様子が大きく変化する場面があることをとらえさせる。

◇学習のまとめとして、広瀬川を見学させ、河川には災害を防ぐための工夫がいくつもあることに気づかせる。

(5) 成果と課題(反省) ○広瀬川の見学活動を取り入れたことで、自分たちが暮らす地域の災害を防ぐ工夫に気づかせることができた。

○見学時の映像だけでなく、学習と関連のあるNHK デジタルコンテンツ(ビデオクリップ)を活用したことは、災害を防ぐための科学的な説明を理解させる上で効果的であった。

○都市型の水害(地下鉄への浸水)を扱ったことで、水害に対する児童の防災意識がさらに高まった。

●教科としてのねらいとは別に防災教育としてのねらいを設定することが難しかった。今回の実践であれば、理科としてのねらいに沿った学習を行うことが、そのまま防災教育につながると考える。



5年授業風景

6. 第6学年

(1) 教科・領域

道徳

(2) 主題名

「みんなに奉仕する心」

(3) 中心価値

「勤労・社会の奉仕 4-(4)」

(4) ねらい

進んで人のためになる仕事をしようとする心情を育てる。

ボランティア精神を育てることによって被災時に地域の人との連携や協力をしていこうとする心情を育てる。

(5) 活動の流れ

◇災害時のボランティア活動の写真を見せ、たくさんの人に支援してもらったことを確認する。

◇国語の時間に調べたことをもとに、ボランティア活動にはどんなものがある

るかを紹介し合う。

◇阪神大震災を扱った資料「うちら“ネコの手”ボランティア」を使って、主人公が「どんな気持ちでクッキーを持って仮設住宅へ行こうとしたのか考えさせる。

◇今後の生活の中でできるボランティア活動について考え、発表させる。

◇クラスの子どもが書いた「震災の記憶」の作文を紹介し、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を歌う。

(6) 成果と課題(反省)○国語でボランティア活動について調べたり、学級活動の時間に震災について考えたりと、この道徳の学習においては、合科的な要素があり、主題について多方面から考える良い機会となった。

○人のために何かを行うこと(人の役に立つこと)が、自分自信を幸せな気持ちにしたり、生きていくための力になったりすることに気づかせることができた。

○後日、「緑の羽募金」「遊具清掃」などのボランティア活動があったが、実践につなげようとする意欲が感じられた。

●「防災教育のねらい」と「道徳の学習の価値」がある中で、どちらも達成しようとする、無理が生じると感じた。学級指導等を使って、防災教育として学習した方が効果的な場合もある。



6年授業風景

[特別支援学級・通級指導教室]

7. きこえの教室

(1) 教科・領域

「自立活動」

(2) 単元名

「自分のきこえについて考えよう」

(3) ねらい

自分のきこえにくさについて、話を聞く環境の面から考える。

「聞く(聴覚活用)」以外の情報獲得手段について知る。

(4) 成果と課題(反省)○普段繰り返し行っている自立活動の内容を、防災に関する内容としてとらえ、それを意識しながら指導に当たることができた。

○災害時に聞こえにくさから起きうる様々な状況を試作したことで、担当者以外の教員の障害に対する理解につながった。また、不都合な状況を解消するために何を学習したらよいかと考え、指導計画を立てやすかった。

●災害時の支援としては、周りの理解も大切であることから、日頃から周りの人たちに支援の方法を伝えていくことを継続していきたい。

8. ひまわり1組

(1) 教科・領域

「生活単元学習」(教科・領域をあわせた指導)

(2) 単元名

「冬の日の過ごし方」

(3) ねらい

火の良さや怖さを知るとともに、火事を起こしたり、やけどをしないようにするための方法を考える。

(4) 成果と課題(反省)○日常生活に必要な知識と技能を防災教育と関連させて指導することができた。また、火の付け方とその様子、火災が起きる場面を撮影した映像を活用したが、とても効果的であった。

●特別支援学級の児童にとって一度だけの体験では定着が難しい。防災に関する知識や実践力を育てるためには継続的な指導が必要であり、そのための計画を年間指導計画にどのように位置付け、指導すればよいか検討が必要である。

9. ひまわり 2組

- (1) 教科・領域 「生活単元学習」(教科・領域をあわせた指導)
- (2) 単元名 「冬の日の過ごし方」
- (3) ねらい 冬は暖房器具を使って暖かく過ごしていることを知り、自分でできる暖かく過ごす方法を探す。
- (4) 成果と課題(反省)○自分でできることを増やしていくことは、障害を持っている児童にとって大きな課題である。今回は、その課題に対して特に防災との関わりを考えた学習を組むことができ、児童にとって良い経験の場となった。
 - 児童によって震災の体験が大きく異なっており、未だに恐怖を感じている児童もいるため、防災に関する学習を行う際には配慮が必要である。

10. ことばの教室

- (1) 教科・領域 「自立活動」
- (2) 活動名 「安全に避難しよう」
- (3) ねらい 避難訓練の意義を踏まえ、地震や火災が発生した際に安全に避難する方法を考える。
- (4) 成果と課題(反省)○避難訓練という具体的な場面を取り上げて指導することができ、児童にとって分かりやすかった。また、児童に自分で自分を守るという意識をもたせることができた。
 - 防災教育に関する指導は、通級教室の目的を考えると困難である。
 - 自校通級児童も、他校通級児童も、通級開始当初の段階で、ことばの教室にいるときに地震や火災があった場合の身の守り方と避難の仕方を指導することが大切である。